



一外国語活動の研究授業・校内研修を通して一

後期巡回校においても、外国語活動の研究授業を設けていただきました。
トップバッターは八丁平小学校です。研究授業・事後研の様子を紹介します。

八丁平小の研修

● 研究授業 & 事後研（全校研）

▶ 全校研究授業・研究協議〔2月1日（水）〕

6年2組学級担任の石原先生と、英語講師の滝澤ジェーン先生がチーム・ティーチングで行う授業を公開していただきました。単元は、6年生の最終レッスン8です。二つの視点から授業を考えていただきました。一つ目は、「単元の導入時に、どんな考え方で、具体的にどんな活動を仕組んでいくか」ということです。二つ目は、「英語講師とのTT」という学校としての指導体制がありますので、「どのように役割分担をしながら・協力しながら授業展開していくか」ということです。

「職業を表す語彙を教える導入、その語彙に慣れ親しんでいく展開」の部分で、児童に対してはもちろん、参観者の先生方に対してもわかりやすく見せていただきました。一番のよさは、6年生2クラスともそうなのですが、学級の雰囲気がとてもよいことです。児童一人一人が安心して積極的に英語を口に出すことができています。言い間違いを恐れずに活動に取り組めるのはとても大事なことです。また、八丁平ではこれまでに、外国語活動の授業研を校内的に実施し研修を行っているというお話を伺いました。事後研においても時機を踏まえた発言が多く、次年度以降に向けて先生方の意識の高さを感じました。

さらに八丁平には、素晴らしいイングリッシュ・ルームが整備されています。掲示物や教材・教具などの環境整備がしっかり進んでいるということは、今後の英語科・外国語活動に対して、先生方が安心して取り組めることにつながります。（サイドや背面も充実です。）

授業公開をしてくださった石原先生・滝澤ジェーン先生、ありがとうございました。お疲れ様でした。

以上、今回は八丁平小を紹介しました。



■ クラスルーム・イングリッシュ、こんなフレーズもいかが！

クラスルーム・イングリッシュ(教室英語)の大切さ・必要性は、これまでも様々な研修の場で耳にしていることと思いますが、「どう増やすか」については、多忙な毎日をご過ごしている先生方においてはなかなか悩ましいところがあります。

そんな先生方に、『ネイティブなら子どものときに身につける 英会話 なるほどフレーズ100』を紹介します。

初版は2000年で、15年以上のロングセラーとなっている1冊です。Stage1はBABY編。「1. Go ahead. (どうぞ/やっいいいよ) 2. Here. (はいどうぞ) 3. Almost! (おいしい!)」など、Simple is best. の考え方が小学校英語にピッタリの1冊だと思います。ちなみにStage2はKID編。Stage5のTEENAGER編まであります。興味をお持ちの方、一度見てみませんか。